

幅広い年齢層への 森林環境教育の展開

～駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターの取組～

写真1

駒ヶ岳と大沼国定公園

北海道森林管理局では、国民参加の森林づくりを推進するため、ボランティアによる森林づくり活動などに対する情報やフィールドの提供、技術指導等とともに、多くの方に森林・林業に対する関心を持っていただくための普及・啓発等に取り組んでいます。

特に、北海道の渡島半島南部(図1)にある駒ヶ岳・大沼周辺地域においては、「駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター」を設置し、国民参加の森林づくりの推進に向けた様々な活動に取り組んでいます。今回は、「センター」の取組の中から、多くの方に森林・林業に対する関心を持っていただくきっかけの一つとして取り組んでいる森林づくりについての普及・啓発活動(森林環境教育)についてご紹介いたします。

「駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター」について

北海道の渡島半島南部にある駒ヶ岳(標高1,131m)と、駒ヶ岳の眼下に広がる大沼の周辺地域は、大沼国定公園に指定され、年間6,000人余りが登山を楽しむレクリエーションスポットです(写真1)。この駒ヶ岳の南側斜面は、国有林となっており、天然生の広葉樹林やカラマツの人工林といった多様な森林が広がっていますが、景観や水質の保全といった地域のニーズを踏まえつつ、森林づくりを進める必要があります。

このため、北海道森林管理局では、

平成16年から「駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター」を設置し、駒ヶ岳・大沼周辺にお

ける国民参加による景観や水質の保全に関する取組、地域住民などへの森林環境教育を実施しています。このうち、森林環境教育については、子ども達を対象として樹木の名前を学習してもらうことで森林・林業への関心をもってもらうことを目的とした「子ども樹木博士認定会」と、苗木の植付けや間伐等の作業を体験してもらうことで森林づくり活動への参加意識を持ってもらうことを目的とした「森林づくり塾」が主な取組となっています。



図1

位置図

子ども樹木博士認定会

子ども樹木博士認定会は、子ども達が樹木の名前を覚え、それをきっかけとして森林に親しむことを目的とした森林環境教育プログラムです。平成12年に東京農工大学の木平名誉教授が提唱され、現在では全国各地で実施されています。

「駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター」では、広葉樹天然林の林内に設置したコースを活用し、樹木博士認定会を実施しています。コース沿いに案内板や

樹名板を設置した「事前学習コース」(写真2)において樹木の名前を学習した後、「テストコース」において、葉や枝等から樹木の名前を答えるテストを行い、どれだけ覚えられたかによって、段や級の認定を行います(写真3)。

また、このほか、小学校などの要望を踏まえて、公園や校庭などの身の回りの樹木を利用した樹木博士認定会についても開催しています(写真4)。さらに、大人の方を対象にした「樹木博士認定会」についても毎年4回程度開催しています。

こうした取組を通じ、「駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター」ではこれまで67回の認定会を開催し、延べ1,346名の方を樹木博士として認定しました。



写真2

「事前学習コース」の様子



写真4

小学校の校庭で開催した樹木博士認定会

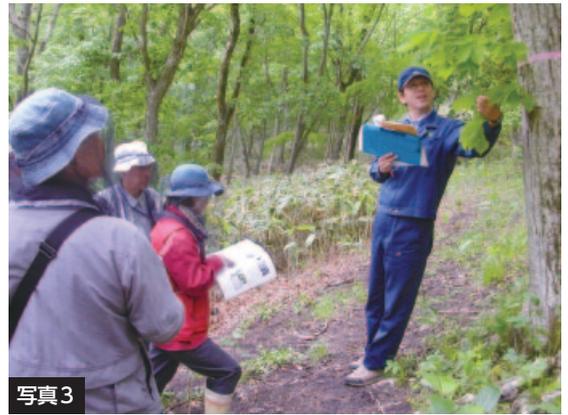


写真3

樹木博士認定会の様子

森林づくり塾

森林づくり塾は、高校生から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、森林の役割や森林づくりの基礎について学習したり、森林作業を体験したりするものです。この塾は、森林をフィールドとしたボランティア活動へ参加するきっかけとしてもらうことを目的に平成19年度から開催しています。

森林づくり塾は、年間6回程度実施しており、苗木の植付け、下刈り、間伐等の林業体験(写真5)や、山地災害の復旧箇所見学、植物の観察会、前述の樹木博士認定会など森林・林業を広く学習できるカリキュラムで構成されています。

森林づくり塾は、これまで40回開催し、延べ696名が受講しました。参加者からは「森林作業の体験と併せて、森林づくりや林業の説明があったの



写真5

森林づくり塾での間伐体験

で、森林・林業について楽しく学ぶことができた。など、高い評価を得ています(写真6)。



写真6

森林づくり塾の受講者

今後の取組

平成16年に「駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター」が設置されてから10年が経過し、これまで森林環境教育に関する取組を実施してきました。これまでの取組で子どもだけでなく大人の方にも積極的に参加いただいたことから、森林環境教育は大人も楽しんで参加できるものと認識しています。

今後も、多くの方に森林・林業に関心を持ち、森林づくり活動への参加をしていただけるよう、森林環境教育をはじめとした取組を展開してまいります。